

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社マル若商店		
事業所名	グループホーム ホープ		
所在地	岐阜県多治見市希望ヶ丘2丁目1番2号		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=2191100011-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの家の暮らしの延長としてホープでの生活を送っていただけるように支援しています。特に出来ることは毎日の日課に取り入れて繰り返しおこなっています。
朝のラジオ体操後には、狭い室内でも3周回って歩行練習(車椅子の人は車椅子に乗って)し、筋力の低下を遅らせる工夫をしています。地域の方のボランティアによる行事もおやじバンド(月1)音楽療法(年2回)ウクレレバンドと歌(年数回)等があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が、心豊かに安心して過ごせるよう、個性を大切に、画一的にならないように支援している。そのために、ゆとりのある職員を配置し、目配りや心配りが行き届くように取り組んでいる。利用者の生活リズムを整え、外出も生活リハビリとし、音楽療法を取り入れ、機能の維持と向上を図っている。車椅子の人には、低反発クッションを採用し、褥瘡を予防している。職員には、働きがいのある勤務体制を取り、また、空室を作らない運営で、職員昇給や賞与に還元し、定着率を高めている。利用者とは、感謝の気持ちが通い合う関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームに入居しても、以前住んでいた馴染みの関係を断ち切らず、地域の一員として暮らして頂くように支援している。	理念は、職員会議で振り返り、確認をしている。利用者一人ひとりのニーズを共有し、地域との関わりを大切にしながら、安らぎと生きがいを感じてもらい、その人らしい暮らしができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前と同じように、地域清掃や行事には参加するように努めている。近所の草花や庭等も見せて頂いたり、交流を深めている。	近隣の人が散歩の途中、立ち寄ってくれる。夏祭りやどんど焼きに出かけ、敬老会から招待を受けたり、清掃活動に参加をし、地域の一員として交流をしている。市から地域の福祉避難所に指定を受けている。	市からの避難所指定であり、町内に周知することが望ましい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人へ向けての取り組みはあまり出来ていませんが、運営推進会議等を通して発信して行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は前年度と変わりはないが、そこでの意見をサービスの向上につなげるように努力していく。	会議の回数と参加者は少ない。出席者から、地域との連携強化の意見がある。また、行政担当者からは情報提供を、地域の役職者からは、有意義な提案を受けるなど、充実した会議となっている。	運営推進会議を、貴重な機会と捉え、事業運営のさらなる活性化に反映できるよう、前向きな取り組みに期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの相談事や課題については、日常的に市へ相談・確認・指導を直接受けている。	市の担当者からは、運営推進会議の際に、保険料の改定や要支援区分変更の説明がある。地域包括支援センター主催の事業者連絡会では、最新情報を交換し、困難事例は、直接出向いて助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、スタッフ会議で議題として取り上げたりして学習している。今後も常に取り組んでいけるよう話し合っていく。	身体拘束は、行わないことを徹底している。職員は、穏やかに接し、不穏にならないような環境に配慮をしている。言葉による拘束も、その弊害を周知して、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については各職員の意識付けを行って防止に努めている。毎月の会議にて個々のケースを確認している。		

岐阜県 グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政との連携の在り方について看護師・施設長等と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に当たって施設内を利用者・ご家族に見学して頂き契約書・重要事項・運営規定等詳しく内容を説明し、理解・納得を得たのち契約を行っている。又、不明な点は随時説明できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議にて利用者やご家族の意見を取り入れられるよう接客をしている。	家族の意見や要望は、面会時に聴いている。高齢や勤務の都合で面会が困難な家族からは、「行けないけれどよろしく」との意見が多い。意見や要望が出やすいように促し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度以上のスタッフ会議で、各利用者の状態やホームの運営に対して職員の意見を取り入れ全員で考えられるような場を設けている。	運営者は、職員とオープンに話し合っている。会議では、有給休暇を取りやすく、働きがいのある職場づくりや介護の気づきなどで意見を交換し、運営やサービスの改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設代表者は、生きがいが持てるような職場環境や労働条件の整備に努め、楽しく働ける職場づくりに日々努めています。管理者は、体力や年齢そして家庭生活を考慮した勤務体制作りが心にかけている。た勤務体制作りが心にかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部研修の機会を持つように努めて行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ経営のグループホーム間における問題点などを共有している。通信メールにより、適時必要な情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至った経いや、入居者の置かれた立場など、医療、社会面からよく理解した上で、声掛けや見守り、本人の立場に立って傾聴し、ご本人に安心していただける環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望をよくお聞きした上で、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のご希望を第一と考え、ご家族と相談した上で必要なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護される」「介護する」という考えではなく、利用者には少しでも「一緒に暮らす我が家」という考えを持って頂けるよう、役割や生きがい作りを考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日に参加される家族もみえます。絆を大切にしながら、家族との交流を援助していきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽にご家族や知人の方々に訪問していただけるような雰囲気作りに努めています。	利用者の、馴染みの場や人を把握して、知人宅を訪問したり、行きたい所へは、ドライブを兼ねている。敬老会では、知人や友人と出会っている。家族の協力で、墓参りや法事、一時帰宅などがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の席順など特に最初は気を付け、利用者が孤立や対立しないよう職員が関係づくりに努めている。利用者一人ひとりの個性や性格を把握し利用者同士が自然に仲良く安心した生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居されたときなど、必要なときはご家族に了解していただき、施設内での情報を開示するなど、退居先でご家族や利用者が混乱しないよう努めている。入院中の病院へお見舞いに行くなど、ご家族との関係を大切に、連携も断たないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや困っている事等に耳を傾け、何でも言ってもらえる関係作りや、日々快適な環境で暮らして頂けるよう努めている。	利用者が、何をしたいのか、満足しているのかを、日々振り返り、思いを把握している。会話の困難な人は、優しく寄り添い、表情や仕草から汲み取り、その人らしい暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など、詳しく聞き取り情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者ごとに一日の生活リズムを把握し、本人にあったリズムで対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者ごとに会議にて意見を出し、医師や担当看護師の意見を参考に、利用者・ご家族の希望を計画に反映し支援に努めています。	介護計画は、ケア会議を開き、本人、家族の意向を反映して作成をしている。毎月モニタリングを行い、利用者の健康を維持し、自分らしさを発揮して、生きがいを感じてもらうように計画をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや各利用者の個別ノートと日勤記録を作成し、日々のケアや気づきの情報を共有している。全職員が読んで利用者の情報を把握し、利用者個々に対し統一したケアができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を行っている。医療連携体制をとっており、看護師による健康のチェックや相談も行い、緊急には連絡し、かけつける体制もとっている。		

岐阜県 グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアのおやじバンドを月一回、音楽療法コースやウクレレと歌の会のボランティアさんが来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第4の月曜、かかりつけ医の往診を受け、健康への管理体制をとっている。薬等の変更時には、本人・ご家族にも話をして了解が得られるよう努めている。	かかりつけ医は継続し、定期的な往診がある。特定疾患者は、専門科で受診をし、家族または職員が同行している。医療情報は、関係者で共有し、急変時に備え、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施している。各利用者に異常が発生したときは、看護師にすぐに連絡し必要な時は、かかりつけ医の受診や入院措置など迅速な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者が入院した際は、看護師が立会い、ご家族の良き相談者となっています。又病院関係者と相談し早期退院に向け支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合における医療体制指針を説明し、承諾を受けている。随時、主治医とご家族との今後の方向性を話し合い、グループホームでの生活を考えて頂く場を持っている。	重度化と終末期の指針を定め、契約時に説明し、同意を得ている。常時、医療行為を伴う場合を除き、ホームで可能な生活を支援している。状態の変化に応じて、家族と関係者で話し合い、方針を選択している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼り出し、迅速な対応ができるようにしている。又、消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修を実施し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと緊急マニュアルを作成し、利用者も参加した消防訓練を計画しています。地域との協力体制については、運営推進会議にて災害時の協力をお願いしていきます。	災害訓練は、失火元や夜間を想定し、手順に沿って実施をしている。初期消火や避難誘導、通報等、住民や消防署と連携をとっている。市からは、地域の避難場所の指定を受け、備蓄も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様を尊重した言葉かけができるよう努めている。スタッフ同士でも気を付けるように話し合っている。	年長者に敬意を払い、尊厳に配慮をし、個人情報、守秘義務を徹底している。職員は、誇りやプライバシーを損ねないように、本人の意思を尊重し、自己決定ができるように話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に利用者に指示するのではなく、何がしたいのか利用者本人の気持ちを尊重した支援を行っている。又意見を言いやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、常に利用者の立場に立って、個々に合わせた支援を心掛けている。自室に長時間いる利用者にはこまめに訪室し、声かけを中心とした支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の衣類選びにおいては、ご本人に選んで頂くように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員参加の外食会を実施しています。ホーム内でも利用者を交えた調理を行い、食べる事への意欲や生きがい作りを行っている。又、食事の準備や片づけも手伝って頂いている。	利用者は、食事の準備や片付けに、進んで関わっている。メニューは、好みや彩りを工夫し、職員も一緒に美味しい食事を共有している。楽しみの一環として、毎月、外食の日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の健康状態や歯の状態に合わせ食事形態を実施し、バランスの良い食事を摂る事を心がけている。毎日、10時と3時のおやつを実施し、水分を摂れるように対応をしている。食事量の記入や食事介助・見守りも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、清潔を保つよう心がけている。イソジンにて舌のケアも行っている。又夜間義歯は預かり、毎日洗浄している。		

岐阜県 グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した方も介助が必要な方も、排泄に関しては常に見守りと介助を行っている。排泄パターンを把握しパンツ・パッドの使用量軽減に努めている。	排泄の失敗は、その原因を探り、個別の状態に応じて、自立できるように支援をしている。トイレ誘導は、あからさまな声かけをせず、プライドに配慮をしている。夜間は、必要な人のみ、おむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて各利用者の排便を把握し、便秘が続く方に対しては看護師を通して医師と相談のうえで下剤を使用し、排便に心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、できる限り本人の希望に沿うようにしている。又必要に応じ、入浴休みの日でも入浴して頂けるように努力している。	入浴は、回数にこだわらず、希望や習慣に合わせて、気分よく、楽しい入浴ができるように支援をしている。拒む人には、曜日を変えたり、足浴やシャワーで対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体調に合わせて、休息はとって頂くようにしている。日中と夜間のリズムをつけ安眠に繋げるよう心がけたり、話し相手になり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は医療ファイルを確認し、全職員が把握できるように努めている。服薬時には、日付や氏名、時間や錠数、確実に口の中に入った事を確認しミスがないよう徹底している。又服薬済み空入れを使用し、再点検を引き継ぎ者がしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者がホーム内での生活に生きがいを持ってるように、又、本人が得意とされている役割を継続できるよう支援を行っている。利用者様同士楽しく暮らしていただけるように座席を工夫、時に移動する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節には散歩や、車でのミニドライブ等戸外に出る機会を設けている。又、外食や行楽行事も行っている。平成27年秋には全員ではなかったが、遊覧船に乗ったり、犬山の紅葉見物に出かけたりしました。	事業所周辺を、日々散歩をし、外気に触れている。買い物は、ドライブを兼ねて行っている。季節の花見や紅葉狩りは、年間行事に取り入れている。普段行けない所へは、家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホーム ホープ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承の上で、金銭管理は職員が行っている。外出の際、おこずかいの中から本人に支払をお願いしたり、おみやげを買っていただく時がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合は、電話をしています。手紙は毎月絵手紙をご家族に送るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファを置き、居室入り口には暖簾をかけ、利用者がゆったりとした気分で過ごせるようにしている。居間には、1階2階それぞれ壁に季節に合わせた貼り絵やレクリエーションでの個々の作品等を掲出し、居心地の良い空間作りに努めている。	共用の間には、季節感のある手づくり作品や、大きな文字の差し替えカレンダー、記念の写真などを飾っている。加湿器で乾燥を防ぎ、快適に過ごせる生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらも居間には、主に食事をするテーブル・椅子やリラックスして頂く為のソファ等も設置し、利用者同士が自由に過ぎて頂けるよう環境を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者にとってなじみの家具や物があれば居室に配置できるようにしている。又ご家族様の写真等置かれる方もあり、その人らしい「自分の家」になるような空間作りを支援している。	各室の、表札や暖簾は、個性的で、混乱を防いでいる。収納ケースや衣装かけなど、馴染みの物を持ち込み、使いやすく配置をしている。家族の写真や手づくり作品を飾り、安心して過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造で利用者の身体能力に合わせて自立して生活ができるよう配慮しています。本人の残存能力や生活の生きがいを保持して頂けるよう努めている。		